



カンボジア王国 「分娩時および新生児期を中心とした母子継続ケア改善プロジェクト」
 ~ Project for Improving Continuum of Care
 with focus on Intrapartum and Neonatal Care in Cambodia (IINEOC Project)~

ニュースレター 第9号
 2017年4月

長い冬がようやく終わり、日本では春爛漫の季節ですが、四季のないカンボジアでもまるで春が来たかのように、プルメリス、ゴールデンシャワー、火焰樹の花、ブーゲンビリア等が見事に咲き誇っています。カンボジアでは今月、年間で最も大切な国民的行事であるクメール正月を迎えました。プロジェクトの対象である国立母子保健センターでも、僧侶を呼び寄せお正月の仏教儀式が執り行われ、病院職員をあげて新年の安寧を祈願しました。プロジェクトメンバーもその儀式に参加し、プロジェクトの成功と、カンボジアの妊産婦・新生児の健康をお祈りしました。

3人目の長期専門家が着任しました。

真崎 陽子 (地域新生児保健)



みなさんこんにちは！本プロジェクトでは主に、プロジェクトの成果3（ハイリスク児と低出生体重児の退院後のフォローアップの強化）を中心として活動する予定です。具体的には、お母さんと赤ちゃんが病院を退院した後、赤ちゃん達が地域で健やかに過ごせるように、医療従事者が使用する教育媒体やお母さんが知っておくべき重要な赤ちゃんの危険兆候等を伝える媒体を作成し、現場の医療従事者が使用できるように研修を支援します。カンボジアで生まれてくる赤ちゃん達の健康が守られるように、プロジェクトの一員として精力的に活動を進めていきたいと思っています。

現地スタッフ紹介 (プノンペン事務所編)

プロジェクトのカンボジア現地スタッフは、日々日本人専門家を力強く支え、日本とカンボジアの架け橋として活躍してくれています。今号では、プノンペン事務所で働く3人のカンボジア人スタッフを紹介します。



ブン・キムチェン
 (テクニカル・アシスタント)

本プロジェクトは、未だ高いカンボジアの新生児死亡率を下げることを目指した重要なプロジェクトだと考えています。プロジェクトの支援によって、多くのカンボジアの保健施設がより良いサービスを提供できるようになっています。

私はカンボジア人として、プロジェクトの一員として、このプロジェクトにコミットし、精一杯働きたいと思っています。



サミス・ケムラ
 (ドライバー)

みなさん、こんにちは！このプロジェクトで働き、ドライバーとしてプロジェクトチームに貢献できることをとても嬉しく思っています。

日本の多くの方にカンボジアに来て頂き、カンボジアの保健医療システムの状況を知り、経験を共有できればと思います。



ソコン・ソピアリス
 (アドミン・アシスタント)

IINEOC Projectはカンボジアの母と子の健康にフォーカスし、母子の死亡を減らすための重要な役割を担っています。そんなプロジェクトの一員として活動に参加できることを誇りに思います。

今後も、カンボジアの母子を支援するため、IINEOC Projectの活動に邁進したいと思っています。